圓滿

鳥

取

縣

0

拶

挨

國

民

精

神

昭和十四年十 (第三種郵便物認可)

關とし、 その運用に習熟せしめやうとす する基礎觀念及び行財政事務に關する法令並に 素質向上並に に依る市町 に從事する者を講習員として、 人材養成の爲に る 一面修養道場として市町村吏員の つて事變關係事務 حح して企圖 るものである。 地方行 新吏員の養成機 財政に 町村事務 がに事變 ð 關 Ξ 来子、西伯、日軍東伯の講習員は

倉吉町

鳥取市 至 同 月 月

十十二日日 三日 間

(水、木、金)

米子市 至 同 十六日 三日 間 (土、日、月)

74 講習 方法

共必す受講せしめられ

講習員の資格

講習會實施要領は左の通りである

Ŧî. 寢衣、

して市町村長の推薦したる

(市は各二名、

町村各一名)

八頭、

氣高の講習員は

市

(公會堂)

七 講習科目並講師 食費、

地方財政補給金で税制 時局下の農政問題 總 行 大 財 財 意 政 動 政 政 員 改 Œ ___ __ 規 屬 屬 庶 時地 總 屬 地 局方 方 務 畫 課長 事 課 部 課 務 長兼 長 長 官 長 靑 窪 音 大 淸 野 小 水 松 田 田 羽 口 Щ 村 谷

宗

灩

徹

國

藏

靑 古 丹

猶

幸

憲

春

武

彥

市

町

村

時

局と

社

會

敎

價

統

制

地方商工主事

Ш

本

社會教育主事

細

川

隆

務

課

長

木

秀

雄

產

課

長

野

丈

夫

寒

月

民登録と國民徴

用

防

圶

E

警

防

農産物の

增產計畫

市

町

村

方

制

度

14 $\mathbf{\dot{n}}$

R

取

縣

公

第

干

-L:

+

號

昭和十四年

+

月

六

H

(第三種郵便物認可)

賴

時間 官

目

科

講

氏

師 10

宿泊料は之を徴收せず

全員各會場に宿泊 洗面用具、 起居するものとす ŀ 類、 筆記用具

至自 同月 十九七日 三日 間

子 市 (公會堂)

野の

講習員は一丁

倉

(有親館)

報

t

號

町 村 長 害

於で 午前 策を講ずるた して 縣下各 + 時年 *るため九月二十五日本縣ではその旱害對 縣會議事堂に を招 き早

害對策懇談會を開催した即ち 施行中の助成對策

施行濟及施 行中の對策

今後施行せ んさす る對策

本日ここに各位の参集を煩な 早害對策懇

の四 は次の 事項を協議したが で ある この日 副見知事挨拶

會 を開催するに當り まして一言御挨拶を申述

力とによ を表する次第 責務を果され ならぬと存じて居る次第であります。 て以て興亞聖戰の目 情勢に對處しましては であります さを以て れては、 此の時 で つっ あります。 あるに對 に不安を感 に處して非常なる 貫徹に努力致さなけ 達成 一層國力 け 3 E ٤ 甚な る 0 たなけれれる事 熱意と 各位 なる 5 衂 あ に於 國 る ばげ際 0)

事變解決 吾々銃後農 ります 山漁村に課せら 中重要農林水產 なる觀點より b n 7 て最 0 重 ろ め 增產 要な b から つたので現に ず重大な 確保 3 B

るど共 助又は 地に存するのであります 談を煩はさうとする 要と存じて居る次 考慮致しま 害後 金收入の途を得 來る 廣汎に亙 すれば、 べき負擔 ます。 所以の であ り各 其の對策は極 2 ものも への他民 ます。 の周到なる配意を必 ことは却々容易なら 急遽各 めて重 心の 罹災農家の 0) 歸趨等 運用 斯 位と 主大であ

助を乞ひ、 害に當り の會合を催しまして、これ 更に廣島縣に於て中國、 農林大臣 し實情の まして 結果を以て政 は を初め關係各係官 報告をなすと共 が對策 種產 対策につきの國早害關係 こては、 うつつ

八、〇〇〇町歩を主とし、農林水産物の 一千二百萬圓と算定せられる多大の 然るに 被害面積約一五、〇〇〇町步、被害桑 一日と激甚を加 も不拘待望の雨 を見ることな 水稻植付未了 を九月 九三三 + 日現 氢 額約

勢力資材の中にあり 産の必要を深く認識せら

Ź

一滴

の油

管生産の確

保に専念せら 一掬の水、

れまし

た涙 をも

次第であ

えますの

對し

7

心

地方民

心を率ひら

時局下

食糧其

の他

0)

增

れさなきだに不足

なる

るの

ます。

斯る情勢に

處して各位

は克

被害は激 枯渇を來し

甚を極

農山漁家の

不安焦慮は

申

桑を初めて

て農林

產

水水

であります。

まし

たること

はの

增產計畫

逐

でも

其の

生活

をも脅

放

せ

とし

うつつ

報 鄧 Ŧ Ŀ 號 昭和十四年 六 Ħ (第三種郵便物認

胶

昭和十四年

可

(第三種郵便物認可)

設揚 ば禍を轉じてれを契機で、 までも 區 で には縣と致 水 ない次第 ます に興 水 其 þ; なく 3 他 縣の意のあるところ 附屬 5 しまし であ 叉各: 今回 て福となすと謂ふべく して縣治百年の 别 機 であ んことを切望してやまない次 一大試 費 ます ても最善の の御戮力と ますっ て居るので を前 練では 不慮の 二七三台 以て未曾有の 併しな 大計 不取敢 力を致した 量 を得まするなら あります す これ 費 應急措置 べき施設 Ç 二六、 の災害 として聖 用 がため つ 〇六五 見 て ぞ 存 第の御 ح 込 額 圓 農牧 サ 飼繭 早桑稻代水 業野 イ 料 增害 園熱 用稻 園 改 ロ 作 産地 間 病 作假 豫 (2)五 尃 施行中の 算 〇二五圓 種 產 助成對策 額 關 係 - 購 補 成費 助費 以入 費 內費 又は 借 Ŧi. 入費 四七四七 助 t 訓 五四五三三〇四〇四〇 0) 四九八四 豫算 七九三八 0000 分 率 〇四一八 0)

原 揚 原 指導督 督勵 利爭議 灌漑用 施行濟及施行 園に敷藁施行、 ものに對する苗假植 動 水 動 施行 の防止 水の調 濟事 早害防止措置の督勵早害防 設水費及 機 機 機 尔用井戶 稻植 旱害防止 0 の質地指導各 期の著しく遅延し 七四 二七七 三四九 九六 す 0 ケ 3 爲桑園内に灌 所 二三八、 三六 四六、 改修、牛園体の海外の 甪 に對 關す tz 五三五 **六**二〇 二八〇 3 る水 九 防止慫慂、旱害田畑員會協議會の開催、具害による減收調査 = 中止、飲料水枯渇對策、旱害地に對す旱害激甚なる地方の造林地に對する下旱害を増加せざるやう除草制限の法 府拂下米 四 九 地租稅 三五六 〇八七 三 四 四 中事援護 免除 調査 す 五分 I 畑に對 事費 借 地主に對い 0 の三分 入 する 以 Ŕ す 0) 以 O 內 用稅議地 る別の 意

Ŧ

七

+

號

昭和十四年十

月

六

H

業に 改善獎勵、 業組合の旱害對策 裏作物の徹底的獎勵、 對し 早 害地よりの優先的勞力供給 稻藁需給調整、 桑園間: 施行 作綠肥及 カ供給、産品中の土木事の土木事

要 項 (略)

四

× ×

X

移 民 地 視 業 0

である。

發

鳥 取 縣 滿 洲 農

主事 密等の各開 歸着の豫定であ 公主嶺の農事試驗場等を視察し來る十月十七日 することとなり。 伯郡教育會では今回滿洲農業移民地 一行二十名は千振、 鳥取縣分村計 九月二十五日鳥取を出發現地に 教育會視察團は社會課大鹽主事補 拓團及び哈爾 る 畫視察團並に 永安屯, の氏 鳥取縣敎育會 瓜 四家房 名 0 は左 向つ 練 0 依古が引 稻盛察 如 並 に

山 見 田 鹽 文 好 憲 憲 之 郞 東 農 **質業專修學校校長** 舍 伯 林 人 郡 主 祭 事 村 村長 長 補 竹 本 齌 稻 內 莊 尾 盛 千 增 代 繁 藏 徹

東伯郡

矢

送

村

長

鷲

米

澤

村

助

役

片

日野郡

溝

口

町

長

深

拓

務

主

事

補

大

東伯郡 東伯郡東鄉小學校長 氣高郡松保小 鳥取市中 東伯郡成德小學校訓 西伯郡富益青年學校教諭 小鴨小學校長 鄉小學校訓導 義 第 學校訓 兀 勇 次 導 導 軍 滿 浦 水 峰 佐 決 蒙 木 中 R 定 開 地 島 部 家 谷 木 拓 友 嘉 光 太 男 明 勗 重 緣 郞 上明春 つてゐる 縣內原 東伯郡以西小學校長 東伯郡上北條小學校長 岩美郡宇倍野小學校訓導 東伯郡高城小學校長 東伯郡庄內小學校長 八頭郡若櫻小學校訓導 の訓練所 を開拓することう 一月勇躍波滿 から 訓練所で二ケ月 Ü し若き鍬の戰士として 十日 原 吉 加 な 柿 つ 山 720 ス 谷 田 の訓練を受け 所することに 桝 坂 藤 田 口 善

寬

治

12 75 黎

介

光

春

實

太

郎

巖

(第三種郵便物認可)

日までに左記十三名と決定した中であつたところ、 志望者は、

本縣ではかねて第四次滿蒙開拓義勇軍を募集

志望者は、締切日

の九月未

頭

大御門村大字御門

同

大誠

村大字六尾

西西西稻茶德

尾村尾村谷本

一操郎三已吉

四一正米

東伯

郡

由良町大字大谷町八橋町大字八橋

ので

7車で茨城

東で

H

鳥

取

公

報

第

+

昭和十四年

十 月六日 午後三時

十三七分鳥取驛發

Ħ.

鳥取市賀露町 氣高郡小鷲河村大字河內 用野村大字別所 羽吉 阿 羽吉

絹山加長今青寺

日野郡大宮村大字寶谷 宇波

鳥取縣

公報

第千

七

+

號

昭和十四年十

月 六日

8	
6	400
6	種
Æ	am
8	郵
8	
2	伊
2	
8	物
8	120
ĸ	2011
8	認
8	-
8	珂
5	
8	\sim
E	
2	
5	

加州の邦人ー文部省鍊習船日本丸海王丸の土産話 田本藤田谷戶坂 務務費 米晃富助基 省货 吉花雄治雄武隆 映畵法解說 タイ國の不良華僑の彈壓航空 母艦と潛水艦

新南群島

江南新作戰展開さる ノモンハン停戰協定成る

動亂の歐洲

ガスを節約しませら!

主婦心得帳

讀者のカメラ

昭和十四年十月六日發行昭和十四年十月六日印刷

関境取締法の話

歐洲諸國の防空計畫

<u>F</u>

企 () 拓

發 即 剧 行

所 鸟 取 刑 粉 支鳥 取縣 為 取 市 東 町島 取縣 鳥 取 市 東 町